



1. J13号石囲炉 (北西から)



2. J5号住居遺物出土状況 (南東から)



3. J5号住居遺物出土状況 (南東から)



4. ずれた落とし穴 (南から)

●主な調査成果

今年度は縄文時代の調査を中心に行いました。縄文時代後期から中期にかけての遺構・遺物が確認されています。石で組まれた石囲炉のある住居址や、小礫と土器をまとめて廃棄した住居址などがみつかっています。縄文時代前期から初頭頃の遺構は、落とし穴が複数みつかっています。そのうちのいくつかは、落とし穴の上端と底面がずれた状態で確認されました。この現象は、この地で地すべり等がおきたときにみることができるもので、大きな地震がおきた証明になります。

- 調査期間 2020年12月1日～2021年7月15日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、古墳、弥生、縄文
- 所在地 秦野市菩提
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北東約4Km
秦野盆地北縁の丹沢山地麓

